



全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.1

ママチャリ乗りが 「自転車議員」になるまで

文

戸田市議会議員(埼玉県戸田市) 真木 大輔(まき だいすけ)

公式ウェブサイト: <http://makidaisuke.jp>公式フェイスブック: <https://www.facebook.com/MakiDaisukeOfficial>

本ページの担当事務局: 特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>



平成25年に戸田市議会議員選挙に初当選した当時、ただのママチャリ乗りだった私が戸田市の「自転車議員」となるきっかけは、高橋大一郎さん(戸田市在住、自転車ルール教習所所長)との出会いでした。高橋大一郎さんは、改選後の戸田市議会議員に対して広く自転車利用環境の向上を訴えられ、それに強く呼応したのが私でした。自転車政策という分野に将来性を感じたからです。

まずは、高橋さんからお渡しいただいた小林成基・疋田智『自転車はここを走る!』(エイ出版社、2012年)、疋田智『自転車の安全鉄則』(朝日新聞出版、2008年)を読了。その後、高橋さんにお引き合わせいただいた小路泰広さん(国交省)からのお誘いで、NPO法人 自転車活用推進研究会理事長の小林成基さんを始めた自転車政策の最前線に立っておられる方々との懇親会に何度も同席させていただきました。自転車政策に関して素人同然の私でしたが、行政に対して一定の影響力を有する議員という存在として、みなさんにとっても大切に扱っていただいたことは、本当にありがたかったです。

その懇親会のなかで小林理事長からいただいた「こういう場で耳から学ぶことのほうが大事。本はそのあとにさらっと読んで確認すればよい」とのお言葉はいまでも忘れませ

ん。それ以来、私は、自転車政策に関するシンポジウムや講演会、その後の懇親会にも積極的に足を運ぶことを心掛けています。そして気が付けば、自転車政策の要所を心得た「自転車議員」に育て上げられていました。

《自転車は左》で マニフェスト大賞を受賞

私にとってもう一つの大きな存在は、Facebookグループ「自転車は左」です。このグループでは、「自転車が車道左側を通行すれば自転車事故が防げる」をモットーに、日々ネット上で熱い議論が繰り広げられ、私は、その議論を隅から隅まで熟読することで、自転車政策に関する知識を身に付けていきました。

そんな折、グループのなかである試みが紹介されました。それは、メンバーの富田悦哉さんが発案された《自転車は左》という文字と大きな矢印を付したプレートを自転車の前かごに掲出するというものです。この大きな矢印は、車道の反対方向を指しており、それにより、逆走してすれ違う自転車に対して「本来走るべき場所はあちら側」と啓発することができます。

さっそく私は平成26年6月の戸田市議会において、この《自転車は左》プレートを、まずは市職員と教職員が乗る公用自転車の前かごに掲出す



平成27年8月に戸田市で正式導入された《自転車は左》プレート。市民への配布も行っています

よう提案し、翌月の7月には全国で初めて戸田市での試験運用が開始されました。

同月、「自転車は左」グループを主宰する藤井清さんのご提案により、「自転車は左」第1回総会を戸田市で開催し、戸田市の取り組みを全国展開させることがプロジェクトの一つに掲げられました。それを受け、私は全国の地方議員、首長、議会などの政策を表彰する「第9回 マニフェスト大賞」にエントリーしたところ、全国からの2,223件の応募のなかで優秀政策提言賞を受賞しました。審査委員からは、①向かい合ってすれ違う逆走自転車への啓発になること、②自転車に乗る本人の交通ルール遵守が徹底されること、③導入コストが低いこと、の3点が評価されました。

この受賞がきっかけとなり、平成27年2月に岡山市での導入が、さらにはその他の自治体でも導入に向けた検討が進んでいるとのことでした。

間違った自転車レーンと ならないように

戸田市は、起伏の少ない平坦なまちであることから、自転車を利用する市民が多く、それが一因となり、人口当たりの自転車事故発生率は全国ワーストレベルとなっています。戸田市は、自転車事故を減らすため、車道のセンターラインを削除して自転車走行空間を整備するなど、ハード面でも自転車利用環境の向上に力を入れています。私はその動きを推進する一方で、整備の細かな仕様についても利用者目線でチェックを行っています。

これまでに私が議会内外で提案し、自転車レーンの質が改善した事例としては、

- 目の細かいグレーチングへの交換
 - 交差点上の矢羽根の拡幅
 - 路面標示の厚み削減
 - 白い矢印の増設(委員会による提言)
- 量が改善した事例としては、
- 県道・国道への自転車レーン設置(会派による提言)

- 生活道路への自転車ナビマーク設置が挙げられます。特に、自転車ナビマークの設置には、担当課のご理解をいただきました。具体的には、平成25年に策定された「戸田市歩行者自転車道路網整備計画」の整備対象が幹線道路のみであるにも関わらず、新たに自転車事故発生率の高い生活道路への整備を進めてくださったこと、埼玉県内で(おそらく)前例のない取り組みに対して県警の許可を取り付けてくださったこと、ピクトグラムのデザインに最新の国の動向を取り入れてくださったことです。

ハード整備の事業は途中からの変更が利きにくいことから、整備予定の自転車レーンが“間違った”ものとならないよう、前もった牽制も行っていきます。その一例として、今年度に予定されている市役

所周辺の自転車レーン整備事業については、既設の自転車歩行者道の幅員が広いことから、自転車歩行者道を視覚的に分離する整備形態が採られる懸念があったため、事業が予算化される1年前から議会で2度の質問を行い、最終的には「自転車レーンの連続性や、交差点での安全性、また歩行者の安全を考慮すると、車道部に整備することが望ましい」との答弁が返ってきました。これは、常日頃の情報交換などにより築かれた担当課との信頼関係の結果であるとも考えています。

自転車政策から 交通まちづくりへ

近頃は、市内のお母さん方から「自転車が車道左側を走らなくてはいけないことは知っているけど、子供を乗せているとクルマが怖い」との声が多く寄せられるようになりました。また、子供や高齢者に楽しく自転車ルールを教えるNPO法人自転車安全運転検定協会(チャリ検)が戸田市に埼玉支部を設置し、市内のお祭り等で啓発イベントを開催するようになりました。行政や議会に対して「なぜ車道左側が安全か？」を正しく理解してもらうことから始



平成28年3月に駅周辺の生活道路へ設置された自転車ナビマーク

まった私の活動ですが、その後の社会的機運の高まりも相まって、徐々に市民の方々へ「自転車は左」が浸透していると感じます。

現在、私の関心は自転車政策から「交通」全般へと広がっています。直近の平成28年3月議会では「徒歩・自転車・公共交通を含む包括的な交通まちづくりビジョンの策定」を提案しました。これまで戸田市では交通安全や自転車利用、公共交通などに関して、担当課ごとに個別に施策が実施されていましたが、今後はそれらを含めつつ、さらに都市計画と併せて「歩行者が安心して歩き、自転車が快適に走り、公共交通が便利なまち」、言い換えれば「マイカーなしで誰もが移動しやすいまち」に向けた交通まちづくりが進んでいくはずだと感じます。

最後になりますが、私はこれまでの3年間の議員活動を通して「正しいことを主張すれば、行政はそれに応えてくれる」という実感を持っています。これからも、戸田市の「自転車議員」として、最新の知見を得る努力を怠らず、行政との意思疎通を図りながら、市民のみなさんの実感にも耳を傾け、「自転車のまち戸田」の進展に寄与していきたいと考えています。

PP



自転車活用推進研究会からのお知らせ 「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。